

### 薩摩鶏を利用したブロイラーの造成

松岡尚二・古市信夫・井上政典・久木元忠延 (鹿児島県養鶏試験場)

Shoji MATSUOKA, Nobuo FURUICHI, Masanori INOUE and Tadanobu KUKIMOTO: Selection for Growth and Disease Resistance in Satsuma Native Fowl

当場では、肉質・肉味の優れたブロイラーを作出するために、1969年から薩摩鶏を利用したブロイラーの造成を行っており、現在でも試験を継続中である。造成は、1) 薩摩鶏交雑ブロイラーの雄系統の造成 (薩摩鶏の改良)、2) 交配する母鶏の選定、3) 飼育管理技術の確立、4) 薩摩鶏交雑ブロイラーの肉質・官能調査の4試験を中心に行った。その結果、現在では薩摩鶏雄と白色プリマスロック種雌の一代交雑種を「薩摩鶏交雑ブロイラー」として年間約50万羽出荷している。今回は、薩摩鶏交雑ブロイラーの雄系統の造成について報告する。

#### 1. 材料及び方法

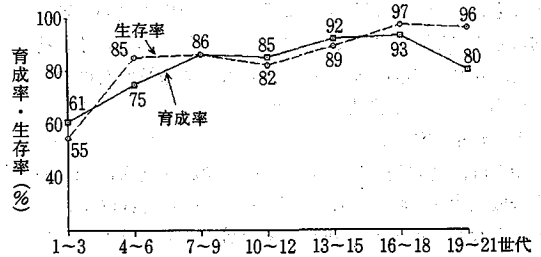
雄系統の造成は、1969年に県下の薩摩鶏飼育農家が飼育している赤笹種から生産された種卵を導入し、これを基礎にして毎年600~2000羽の初生ひなをふ化し、これらのうちから雄15~30羽、雌100~200羽を種鶏として次世代の候補鶏を生産した。

選抜は、雄については産肉性 (70日齢体重)、抗病性 (白血病等)、雌は産肉性、抗病性その他に産卵性 (産卵数、初産日齢、卵重) を選抜基準として、これらの形質について全群の平均値以上を個体、母鶏、家系ごとに選抜し、抗病性については白血病等の発生の家系はすべて淘汰した。

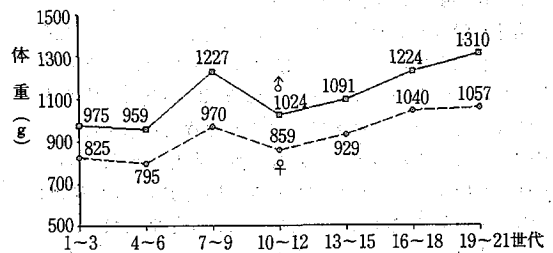
#### 2. 結果及び考察

1日齢から180日齢までの育成率及び181日齢以降の生存率は、第1図に示した。造成当初の1~3世代では55%~60%であったが、13世代以降は90%前後で推移した。これは、白血病等に対する選抜の効果と思われる。選抜時の70日齢時体重及び成鶏時の300日齢時体重は、それぞれ第2図及び第3図に示した。両特性とも世代とともに増加し、19~21世代は1~3世代に比較して70日齢時は約200~300g、300日齢時は約600~700g、それぞれ増加した。産卵成績は第4図に示した。19~21世代は1~3世代と比較すると初産日齢は約1ヵ月、産卵率は約10%、卵重は約5g改良された。しかし、3特性とも4~6世代までは改良の効果が伺えたが、以降は、ほとんど改良効果が認められなかった。これは、体重を中心に選抜をおこなっているためと思われる。

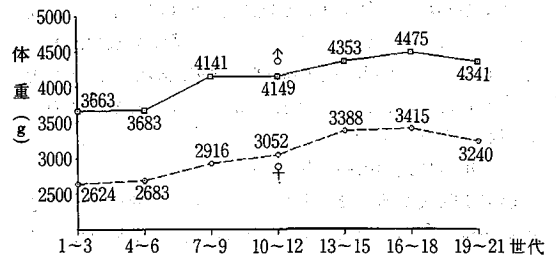
以上、21世代に渡る選抜の結果、強健で増体の良い薩摩鶏が造成され、薩摩鶏交雑ブロイラーの生産性の向上に寄与している。



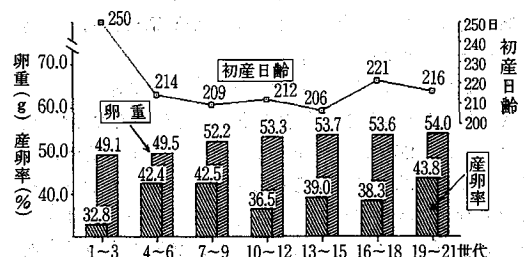
第1図 育成率及び生存率の世代ごとの推移 (育成率: 1~180日齢 生存率: 181日齢以降)



第2図 70日齢時体重の世代ごとの推移



第3図 300日齢時体重の世代ごとの推移



第4図 産卵性の世代ごとの推移